

1 A たり

NO 5

昨日は、会議があつて、夜の9時ごろに帰宅しました。遅い夕食を済ませて、すぐに眠ってしまいました。子ども同様、大人にとっても、今の時期は疲れがたまりますね。五月病でしょうか。朝を起きて、TVをつけると、拳銃を持って立てこもりの映像です。昨日からこんなことがあったなんて知りませんでした。ニュースでは、拳銃で撃たれ死亡した警察官について語っています。20代の若さで、幼い子どもがいるそうです。赤ちゃんポストに、わが子を入れる親もいれば、無念で、わが子と終の別れをしなくてはならない親もいます。

画面を見ていると、なんだか昔あった『浅間山荘事件』まで思い浮かべてしまいました。この国は、本当に危うい社会になってしまいましたね。大人の社会が、危ういのですから、この後、必ず子どもの社会も危うくなります。

もっともっと、大人がしっかりしなくてはならない、いくら法律を作っても、なんの解決にもならないでしょう。大切なのは、心の豊かな大人にならなくてはなりません。

親友が生まれる瞬間

「友達はあるけど、親友はいないよ」

昨年、そんなことをきっぱりいう女子生徒のB子がいました。

「っていうか、親友って何？」と、逆に質問されます。現代の子ども達にとって、“親友”という言葉すら“死語”になっているのかもしれませんが。

昨年の話ですから、今年の1年A組の子ども達は、どう考えているのか、まだ知りません。いつか聞いてみたいものです。

ある日、終わりの会で、そのB子のいる教室にいとみると、欠席しているA子の机の上には、本日1時間目から6時間目の授業まで配られたプリントの山がどっさりあがっていたのです。わたし、この状況を見ると、とってもさびしくなるんですね。A子の机の隣の子も、前後の子も、何も感じないんだなーって。

「みんなね、今日休んだA子が、明日教室に来て、どう思う？」と、終わりの会で、話したんですが、いまいち、言いたいことが伝わらないみたいでした。

欠席した翌日の登校は、誰もが、「みんな、何て言ってくるだろう？」って思う、ちっちゃな不安を抱えてくるものなんです。大人だってそうですよね。年休とった次の日なんて、なんだか、悪いことしてないのに、なんとなく、遠慮気味に出勤してしまう。

そんなときに、机の上にプリントの山ですよ。

「あー、みんなは、わたしの休みなんて、どうでもいいんだな。」って思うに違いないですね。

だから、わたしは、いつも欠席の生徒の机の上に、プリントを載せたままにしないようにって、生徒に言っているのです。

なんで、機嫌悪そうな顔なんだという、周りの子の雰囲気の中で、わたしはA子のプリントを整理しながら、ファイルに入れました。

「じゃあ、誰かA子の家に、このファイル持って行って？」と、聞きましたよ。

「エー、俺家知らねもん」「隣のクラスならいる」「雨だもん無理」とか、そんな否定的な返事の中、あのB子が「わたし持って行ってあげる」と、ファイルを受け取ってくれました。別にA子とは、話を交わすという軽い程度の関係であったはずのB子が持って行ってあげるなんて、ちょっぴり意外に感じたものです。

最近の1年A組も、これまでの疲れがたまったのか、発熱で欠席する人が続きましたね。誰も座っていない机を見るたびに、去年のA子の机の状況を思い出すのです。だから、やっぱり、A組の子ども達にも、言いましたよ。

「プリントは、この封筒にいれて、誰か持って行ってくれる？」って。

「えー、遠いもん」とか、「地区違う」という、言葉が返ってくるのは、同じ感じですよ。

それでも、中には

「俺、家に帰ったら自転車で行ってもいいよ」と、行ってくれた人もいました。

そんな中、家に帰る方向の同じ〇〇さんと〇〇さんをお願いしました。

「わかりました」と言って、嫌な顔せずに、引き受けてくれましたよ。

その返事とともに、B子のことを再び思い出したんです。

「昨日ファイルを届けてくださった方はどなたでしょうか。実は雨に濡れないように、ハンカチのような布で包んで、ポストに入れてくださっていて、ありがたかったです。」

実は、次の日、A子のお母さんから連絡帳が、わたしに届いたんです。連絡帳に書かれていた内容が、上のものでした。

B子に聞いてみると、雨の中、A子の家に行き、鍵のかかったドアで仕方なく、ポストにファイルを入れたんだそうです。ただ、A子の家のポストは、屋根のないものだったので、B子は、自分のハンカチでファイルを包んで、入れておいたんだそうです。

その日以降、A子とB子は、とっても仲良く交流する姿が、数多く見られました。そして、その後の高校受験も、A子とB子は、違う高校を目指していたのにも関わらず、いつもいっしょに励ましあって、図書館でふたりで勉強していましたね。

卒業を目前にしたある日、B子はわたしに寄ってきて言うんです。

「先生、親友いるよ」って。

ファイルを雨の中、自分の足で持って行ってくれた行為。ハンカチで包んで置いて行ってくれた行為。あれが、『ふつうの友』が『親友』に生まれ変わった瞬間だったんですね。

親友って、作るものではなくて、生まれるものなんだなあって、B子から教えられました。

チャイムが鳴って、1年A組の終わりの会も終了。さようならとともに、全員下校となります。

「先生、待って、ちょっとペン貸してください」って、

数名の女子生徒が、封筒を持って、教卓の中のペンを取り出しました。

封筒の表には、欠席した子へのメッセージです。

きっと、親友が生まれる瞬間が待っています。

ご意見・ご感想をお願いします。

戻る